



シルバーだより

No. 301

平成 27 年 7 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— さあ、前を向いて —

副学長 木村 國子

近頃の異常気象に驚く。なんと、5月31日には東京都心で最高気温 32.2 度を記録したという。7月の気温はどうなることだろう…。

世界的にもインドの熱波による多数の死亡者、ネパールの大地震による大きな被害等、異常気象のもたらす結果が心配される。私達の出来る事はなんだろう？日常生活の小さなことからその原因となることを考えて、歯止めをかける努力をしよう。

暗い話の多い中で、最近、前向きになれる話を聞く機会があって、気持ちが明るくなった。シルバー大学合同講義での天中軒轟さんの話。演題は、「語り浪曲の世界、浪花節繁盛記」だったが、その朝、語り浪曲師にとって大切な「歯」が、抜けてしまったという。それをものともせず、笑いに変え、少々息漏れのする声で演じ切ってしまった。その浪曲師根性の見事さ！



師匠の国本晴美さんも顎の外科手術を受け、話しづらい状況の中で講演された。「三婆物語」をゆっくりと、感情豊かに、味わい深く語られ、私達を笑いと涙の世界へ導いてくれた。

お二人に共通していることは、困った状況でも落ち込まず、何事にもとらわれず、マイナスをプラスに変えようと努め、発想の転換を図ることではないだろうか。

更に、「どうして浪花節は廃れたと思うか？」と、観客に向かって聞く勇気、仕事に対する姿勢、思い入れはすごい！「時代に合わないから。説教臭いから。言葉が理解出来ないから」と反応があっても、それを受け止める度量の深さに学ぶことが多かった。

最後に、国本晴美さんが言った、「不幸なことばかりにとらわれず、三度のご飯が食べられる。寝るところがある。歩ける。話せる…。やりたいことをやる。生きているうちが花」という言葉に感銘を受けた。

その通り！さあ、私達も前を向いて、一步一步進もう。

《 第一回合同講義を聞いて 》

日本の話芸・絵手紙 B 教室講師 塚田 義介

今年度第一回目の合同講義は、浪曲をテーマにした「語り浪曲の世界」でした。もちろん日本の話芸教室の生徒にとっても嬉しい企画で、楽しみにしていました。

第一部の『浪花節繁盛記』は浪曲の歴史を語るとともに、自分史を浪曲で語る天中軒轟先生の浪曲にかける熱い思いがヒシヒシと感じられました。教養と蘊蓄とユーモアに溢れた【天中軒轟の世界】でした。

第二部は、いま現在の浪曲界を代表する若手とベテランの師弟共演でした。国本はる乃、19歳の若さ溢れる美声と堂々とした舞台度胸は観客の皆様の心をグッと捕えたことでしょう。浪曲は一声・二節・三啖呵と言います。天性の美声の持ち主はる乃さんは将来有望です。若いのに、セリフもしっかりしていて驚きました。トリの大師匠、国本晴美『三婆物語』は、何の変哲もない日常の世間話を淡々と描きながら、観客の心を物語の世界に引き込み、満足させてくれました。

つくづく芸の力の凄さ恐ろしさを感じました。そして、人々に明日を生きる力を与えること、明日も楽しく生きていこうと励ますことが、大衆芸能、大衆演芸の持つ底力だと感じました。

天中軒轟先生 国本はる乃さん 国本晴美さん

第一回合同講義

「語り浪曲」

提供：写真教室



投稿欄

天中軒轟さんは、若くして浪曲の世界に入り、四代目天中軒雲月の内弟子として修業を重ねて、東洋大学で印度哲学を学び、世界中を旅し、60カ国を超えたそうです。浪曲は義理と人情、涙の世界を根底に浪曲を語る台本を書き、舞台でご披露しているそうです。

国本はる乃さんは19歳とは思えない素晴らしい声でした。浪曲特有のうなりや節回しが難しく、稽古を重ねる腹式呼吸の発声では、学生時代にトランペットで鍛えた腹筋が役だったそうです。

国本晴美さんは、四代目東屋楽遊に入門しました。NHKの勉強会に顔を出すようになり、いつかは子育てと家業のために浪曲界から遠ざかりましたが、若い頃からお世話になった浪曲です。「浪曲は心の支えでした」現代風にアレンジして素晴らしい浪曲でした。感動しました。本当に有難うございました。

(町屋地区 35 班 布川 春江)

《 頭の体操教室で学んで 》

今年9年目になる頭の体操教室を、1年目から受講しています。色々なことをして楽しく脳を使っていますが、最近、物忘れが多くなったと感じています。でも、この教室にお世話にならないでいましたならば、更に多く忘れることだろうと思っています。

水越先生は、誰にでも簡単に覚えられるように、計算や漢字の読み書き、そしてインド式の算数など、工夫をなされて分かりやすく教えて下さいます。

「メルヘン・オン・パレード」や「がまの油」など少し長い文章も何度も繰り返して学習するうちに、暗記できるまでになりました。

皆様も私と同じ気持ちで楽しみながら授業を受けている様子がうかがえます。笑いで始まり、笑いで終わる、とても楽しい教室です。

(頭の体操教室代表 関 夏子)

《 隻眼の剣豪 》

水彩画教室講師 遠藤 みつひさ

水平線の彼方にかすかに見えていた煙、次に煙突が、やがて船の形が現れ、近づくにつれて大きくなっていく。遠くに見えた列車が駅に近づくにつれ大きくなり、発車すると次第に小さくなっていく。このような体験は誰でもあることでしょう。

私達は、生まれてからこの方、遠い・近いの感覚を無意識に感じ、何故とか不思議にも思わず生活してきました。では何故、遠い近いがわかるのでしょうか。絵を描くようになってから分かったことですが、私達は両目の視線が作る角度で遠近を判別しています。この理屈で作られた物に測距儀があります。

(今では音・電波・光の反射で距離を測れます)

色で遠近を表現する方法もありますが、またの機会にお話しします。

さて、絵画は、画用紙という縦と横(平面)の二次元の世界ですから、絵の中のどこを見ても両目の視線の角度は同じで、同じ距離になります。そこで絵に描いた物(縦横)に奥行きを加えて三次元の世界を作り出します。その結果、平面に描いた物が立体的に、又遠い近いが表現されます。前述した船や汽車のように同じ物は遠ざかるにつれ小さく描きます。(放射遠近法)

ところで、両目の視線が作る角度で遠近がわかることを前述しましたが、私が思うに剣豪として知られる柳生十兵衛や丹下左膳は、講談の中では隻眼で活躍しています。隻眼になった時点までの両眼の世界が脳の記憶に残っている間は、ある時までは何とかなるかも知れませんが、剣豪とはいえ隻眼では、剣先一寸が生

死を分ける世界を考えると、はてなと思うところがあります。

眼帯を着けた時、手を伸ばしても物に手が届かなかった経験がありますが、皆様如何でしょうか。

少々脱線しましたが、絵画を鑑賞される時、前述したことを考えながら眺めると新たな発見があるかも知れません。

《 台湾からの見学者来校 》

絵手紙 A 教室講師・理事長 岡田 芳子

5月14日、絵手紙教室へ台湾から国立中正大学・博士生 黄 淑珍さんと、早稲田大学研究生(中国) 武 沢華さんが見学にいっしょにいました。高齢者が真剣に学ぶ様子を見学されました。

「一緒に描いてみませんか」と誘いますと、受講生の中に入り、隣に座った方の帽子を二人で描き始めました。教室に華が咲いたようでした。

途中で、輪踊り民舞教室へ行きました。皆さんに歓迎されて輪の中に入り、身ぶり手ぶり楽しげに踊り、心が通うひとときでした。高齢者が学ぶことを通して人と人との輪を広げ生きる力を高めている姿に感動されていました。

見学が終わり、シルバー大学について色々質問されました。年齢層、就学年数、教科、男女比等々。創立30周年記念誌は、まさに教科書でした。国際交流の一こまでした。

【 七夕に願いを込めて 】

— 自分史教室より —



人生限りなく、楽しい、嬉しい、
つらい、悲しい 色々
藤原 晃

足の痛みに負けず、
マラソンがしたい
篠沢 欣子

人生も残り少ない。
願い事はいっぱいある。やりたい
こと、行きたい所、観たいこと。
そのためにも、健康でいたい
岩崎 芳民

祈
健康
井出 治雄

煩惱を断ち切り 前進

竹本けい子

日々を心おだやかに

送って行きたいです

山田 紀子

願わくば 朝寝のまゝに

逝きたしと

落合 静子

山頭火はふところに毒、私は語彙
を多くふところに入りたい

榎本 節子

いつ迄も元気な旅が

出来ますように

嶋戸由美子

今の幸福が

長く続きますように

早間 節子

坐骨神経の痛みが取れて、毎日
笑顔で暮らせますように

石井みよ子

主人の病が良くなり、二人で
ゆっくり旅行したいです

入山 勝子

私がほしい

雨宮マサ子

満九十歳に追いかけられている
今日。頭の中身・足腰が、人並
みについて行かれるか、私自身
の問題である

中野 俱子

健康にこれからも
過ごせますように

福井キミ子

笑顔で過ごせる日が一日も
多くありますように

石井 美晴

